

# 事例 33 思考展開シート

## (1) 疾病や薬の副作用等の影響は考えられますか？

【質問】歩行時に痛みを訴えているようですが、原因となる疾患等がありますか。  
【回答】・主治医の記入した病歴には特に記載はない。

【質問】喘息は、身体活動に影響を与えていますか。  
【回答】・普段の生活の中で、息切れや発作などの影響は見られていない。

【質問】服薬中の薬剤は、今回取り上げたAさんの状態に関係しそうな副作用等がありますか。  
【回答】・特に見られない。

## (4) 音・光・味・臭い・寒暖等感覚的な苦痛を与える刺激の影響は考えられますか？

・日中（特に夕方）は家に帰ろうとすることが多い。  
【質問】帰ろうとしない時と比較して、本人を取りまく環境の変化はありますか。  
【回答】・デイサービスの利用者が帰る準備をしている。

・まわりが大声を出したり、騒がしかったりするとイライラする。  
【質問】具体的にどのような言葉や行動でイライラを表しますか。  
【回答】・「やかましいこと！」と怒る。

## (2) 身体的痛み、便秘・不眠・空腹等による苦痛の影響は考えられますか？

・一人で歩けると思って歩き始めるものの、足が痛くてあまり歩けないことが多い。しかし、いったん座るとすぐに痛いことを忘れ、再び歩き始める。

### 本人の言葉や状態

ワークシートC- に書いた、本人の言葉や行動を書き出し、関連のありそうな情報を整理してみよう。

「母ちゃんが待ってるから帰らなくちゃならない。」  
「危ない!」「こわい!」  
「足が痛くて・・・」  
「私はちゃんとしてるから、一人で帰れるわよ。」

## (3) 悲しみ・怒り・寂しさ等の精神的苦痛、また本人の性格等の影響は考えられますか？

・母親や兄弟がいた時代をとて大切に感じていることが「帰りたい」という訴えになるのではないか。  
・とて自立心が強いので、人に頼らず自分の力で何とかしようとする。  
【質問】自立心が強い、と考えた根拠はどのような事実からですか。  
【回答】・自分の食べた食器は自分で片付けようとする。その他更衣や排せつなど、どんなことも人に頼る気持ちがなく、自分で行うのが当たり前と思って行動しているため。

## (5) 家族・介護者など周囲からの過剰、あるいは少なすぎる関わりの影響は考えられますか？

・周りからの関わりが少ないと、ふと家族のことが思い浮かびそろそろ帰らなくてはという気持ちになる。  
【質問】この事実から、このときAさんはどのような気持ちであると推測できますか。  
【回答】・ここで過ごしている間にすっかり時間が経ってしまった。母親が心配しているだろうから、早く帰らなくては。

・歩き始めた時、そばで見守りができないとバランスを崩した時に怪我を防ぐことができない。しかし他の入居者のケアと重なると常にそばにいられないことがある。  
・関わりが多すぎると、余計な世話と感じてイライラする。特に歩き始めようとした時に引き留めたり、Aさんの向かう方向と逆に誘導しようとしたりすることは逆効果。

## (6) 障害程度・能力の発揮に対して、住まい・器具・物品等物的環境による影響は考えられますか？

【質問】Aさんが安心して過ごすことができるケアの工夫をしていますか。また、それに対してAさんはどのように思っているか、具体的な言動がありますか。  
【回答】・家族から、居室で落ち着けるようにと、鏡台やテーブル、いすなどを持ってきてもらったが、本人はあまり興味がないのか使用する様子はない。

【質問】以前から、椅子やテーブル、鏡台を使用した生活を送っていましたか。また、それらのものがなぜそこにあるのか、誰のものか...など本人が違和感を表している様子がありますか。  
【回答】・入居前は特養に入居していたので、自宅にあるような家具類はなかったようである。  
・現在居室にある家具類についてなぜそこにあるのか、誰のものかということについて話すことが全くなく、関心があるようには見えない。  
・自分の居室であるという意識もないが、本人はそれを問題とは思っていないようだ。

## (7) 要望・障害程度・能力の発揮と、アクティビティー(活動)のズレによる影響は考えられますか？

・家に帰ろうと歩いている時に、さりげなく職員が手をつなぎ、声をかけながらゆっくり歩くことは、過剰にならない限り受け入れてくれる。  
【質問】Aさんは、職員に何を求めていると思いますか。(手をつなぐということが、本人の求めていることを満たしていると考えてみましょう)  
【回答】・家に帰る時に寄り添ってくれる人、または不安を和らげてくれる環境を求めていると思う。  
・手をつなぐことは大抵受け入れてくれるが、気持ちが焦っている時はそれも拒否する。だが、一人で帰ることに不安が残り、さらにイライラしてくるのだと思う。そのようなときは、「こんにちは、気をつけて行って下さいね。」と笑顔で一言声をかけて、あとは少し離れて見守るようにしている。  
・1対1または少人数で、歌を歌ったりボール遊びをしたりするなど、子供のころを思い出せるような過ごし方を好む。その間は帰ることを忘れている。しかし常に対応できるわけではない。

## (8) 生活歴・価値観等に基づいた暮らし方と、現状とのズレによる影響は考えられますか？

・結婚後は大変苦労したために、子供時代が唯一安らげる思い出となっている。その頃に帰りたいと思うがうまくいかないことにやや焦りを感じている。  
・長年一人暮らしで他人に頼らず生きてきたため、周りに干渉されることはストレスを感じる。  
・子供のころから高齢になるまでずっと同じ町で育ったため、その土地で暮らせない現状に納得がいかない。  
【質問】Aさんは、どのような環境で暮らしたいと思っているのでしょうか。思いついたアイデアは、ワークシートのFに記入してみてください。(環境を幅広く捉え、スタッフの接し方なども環境と考えてください)  
【回答】ワークシートF参照。